平成27年度新宮市男女共同参画講演会（白井文さん）講演概要

新宮市では平成28年2月20日、新宮商工会議所において前尼崎市長で人材育成コンサルタントの白井文さんをお迎えし、～意思決定の場に女性を～『男女共同参画と私たちの未来』をテーマに講演会を開催しました。白井さんご自身が当時の最年少女性市長として活動してきた体験をもとに話され、来場された約70人の皆さんは、熱心に耳を傾けていました。

また、アンケートも実施し、約68%の方からご協力をいただきました。その中で、「とてもわかりやすく親しみやすいしゃべり口調で聞きやすかった」「内容的にすばらしかった」「経験に基づいた内容で良かった」などの感想が寄せられています。詳しくは、一覧表のアンケート欄をクリックしていただきますと、アンケート集計結果のＰＤＦファイルがご覧いただけます。

白井さんは、日本の男女共同参画は国際的にも遅れており、女性の社会進出など男女間の格差が大きく、世界的に見ても、政治や経済の分野で女性進出ができていないと話した上で、成熟した経済社会で女性たちの知識や知恵、エネルギーやネットワークを生かさないとイノベーション（革新）は起こらないと話した。日常生活において「男のくせに」「女なんだから」という刷り込みを受けていると指摘。意識を変える、刷り込みを無くすのはすぐにはできないが、意思決定の場に女性が出ていき、参画する女性が増え、変化が数字で見えることが大事と述べた。

意思決定の場に女性が参画するために「男性は、仕事ができそうな女性を見つけ、いい所を評価して頼んで。評価され仕事と向き合い、説得力、愛をもって頼まれれば女性も心を動かされる。女性は頼まれたら断らないという選択肢を増やして」と呼びかけた。白井さんは、自信も経験もないまま、頼まれて断れず立候補し、当選して尼崎市長になったこと。女性リーダーの登用率上昇をめざし職員と何度も衝突したこと。男社会であった尼崎の工場で女子採用を頼んだことをきっかけに女性社員が採用され設備の整備や作業のマニュアル化、安全管理、安全の可視化など内部改革が起こり、女性が働きやすい職場は男性も働きやすく安全と分かっていったと話した。

自身が市長時代に発生したＪＲ福知山線脱線事故が起こり、対応マニュアルもない状態で大変苦労した話をし、「困難や災害に遭ったときに被害者に寄り添うことができるのは基礎自治体、被害者に寄り添う大切さを職員が経験できた」と振り返った。人は経験から学び、引き出しにたくわえることはできるはず。それはリーダーを引き受けるときの勇気や励ましになるのではないかと述べ、「是非いろんなことに挑戦を。年齢も性別も関係なく、健全な野心を持って高みを目指してくれれば、そうすれば、見える景色が変わってくる」と語りかけた。

講演する白井 文（しらい あや）さん（新宮商工会議所）　平成28年2月20日（土）